

乙女座

乙女座は 1937 年に、舞台演劇とその後の映画上映のための劇場として建てられた。この劇場は御手洗町長の個人資金で運営されており、彼の母親の登米さんに敬称の「お」を付けて名付けられた。その外観の装飾は泣いている女性の目に似ているという説もある。

御手洗には江戸時代の歴史的建造物が多いことで知られているが、乙女座では少し後の時代の様子を垣間見ることができる。昭和初期には、和洋折衷の文化運動「昭和モダン」が展開された。御手洗の江戸時代の建物と比較してみると、西洋の影響の大きさがよくわかる。

その後、次第に映画の上映にも力を入れるようになり、1960 年代後半に閉館。1960 年代後半に閉館した後は、名産品であるみかんの選別場として利用されていました。みかんとそれを運ぶトラックのスペースを確保するために、入り口を広くし、内部の調度品をすべて撤去し、壁を取り壊して広く開放的な空間にした。2002 年、御手洗の住民の要望により、残っていた建物は取り壊され、当時のデザインで全面的に建て替えられた。設計図がなかったため、企画担当者が御手洗の昔の住民にインタビューを行い、その記憶をもとに劇場の細部まで再現した。その際には、1937 年の開場当時の雰囲気再現することに細心の注意を払った。例えば、客席には椅子がなく、畳敷きの床に裸足で座っている。改装された劇場の壁には、紅白の提灯が並び、かつて上映された映画のポスターが貼られている。

現在は、演劇やミュージカル、映画の上映会などの会場として利用されている。また、アニメ「たまゆら」（2011 年）の第 4 話や第 11 話など、劇場自体が舞台になったこともある。